

月刊神戸っ子震災10年記念号

2005年1月28日発行 第13巻 第8号  
通巻322号 昭和40年1月20日 第三種郵便物許可



KOBECCO

kobecco.co.jp



この街で、出会う。



JEWELRY **タジマ**

神戸市元町2丁目TEL.078 (331)5761



ど  
み  
が  
え  
れ  
美  
佐  
神  
戸

美佐



月刊神戸つ子震災10年記念号を発行する会

書/望月 美佐



受け継がれる“時”



時計やジュエリーは「今」のためだけに  
あるのではない  
遠い未来においてもきっと誰かが  
それを大切に使いつづけているはず  
美しい時計やジュエリーのその機能美、精神的価値は  
ずっと色褪せることがない  
愛する人から受け継いだ、世界で一番魅惑的なもの  
それは世代を超えて輝きつづける

よいものを世界から。正統な扱いで。

神戸 三宮 カミネ

Since 1906 Kobe  
  
**kamine**  
Fine Jewelry & Watches



2005

本年もカミネを

よろしくお願いいたします



Since 1906 Kobe  
  
*kamine*  
 Fine Jewelry & Watches



「さんちか」は  
神戸・三宮のショッピングエントランス

お娘の  
新! 発見  
まちとひとに素敵な笑顔を

## 季節ごとに楽しめる おしゃれ・グルメ

電車やバスを降りたら、そこは「さんちか」。  
ショッピングやお食事を楽しんだら、  
そのまま帰れるターミナルにあるさんちかは、  
素敵な暮らしの情報ステーションでもあります。  
ショッピング、グルメ、わくわくするイベントの数々を、  
おしゃれ感覚でお楽しみください。



さんちかメンバーズカードは、より便利に、よりお得にパワーアップ!  
インターナショナルなさんちかメンバーズカード



さんちかメンバーズカード  
Orico Card/Master Card



さんちかメンバーズカード  
Orico Card/VISA



さんちかメンバーズカード  
Orico Card/JCB

**ポイント1** 全てのショッピングご利用にポイントがつく!!

**ポイント2** ご利用金額に応じてボーナスポイントもたまる!!

**ポイント3** JALマイルージ、ドコモプレミアクラブへのポイント移行も可能!!

**ポイント4** 多彩な商品との交換も可能!!

さんちか名店会  
神戸市中央区三宮町1-10-1 TEL.078 (391) 3965  
営業時間/AM10:00~PM8:00  
(飲食店はPM9:00オーダーストップ)

**santica**  
The New Heart of Kobe 神戸・三宮さんちか  
<http://www.santica.com>



月刊神戸つ子震災10年記念号

書／井戸敏三（兵庫県知事）  
絵／東山魁夷（日本画家）

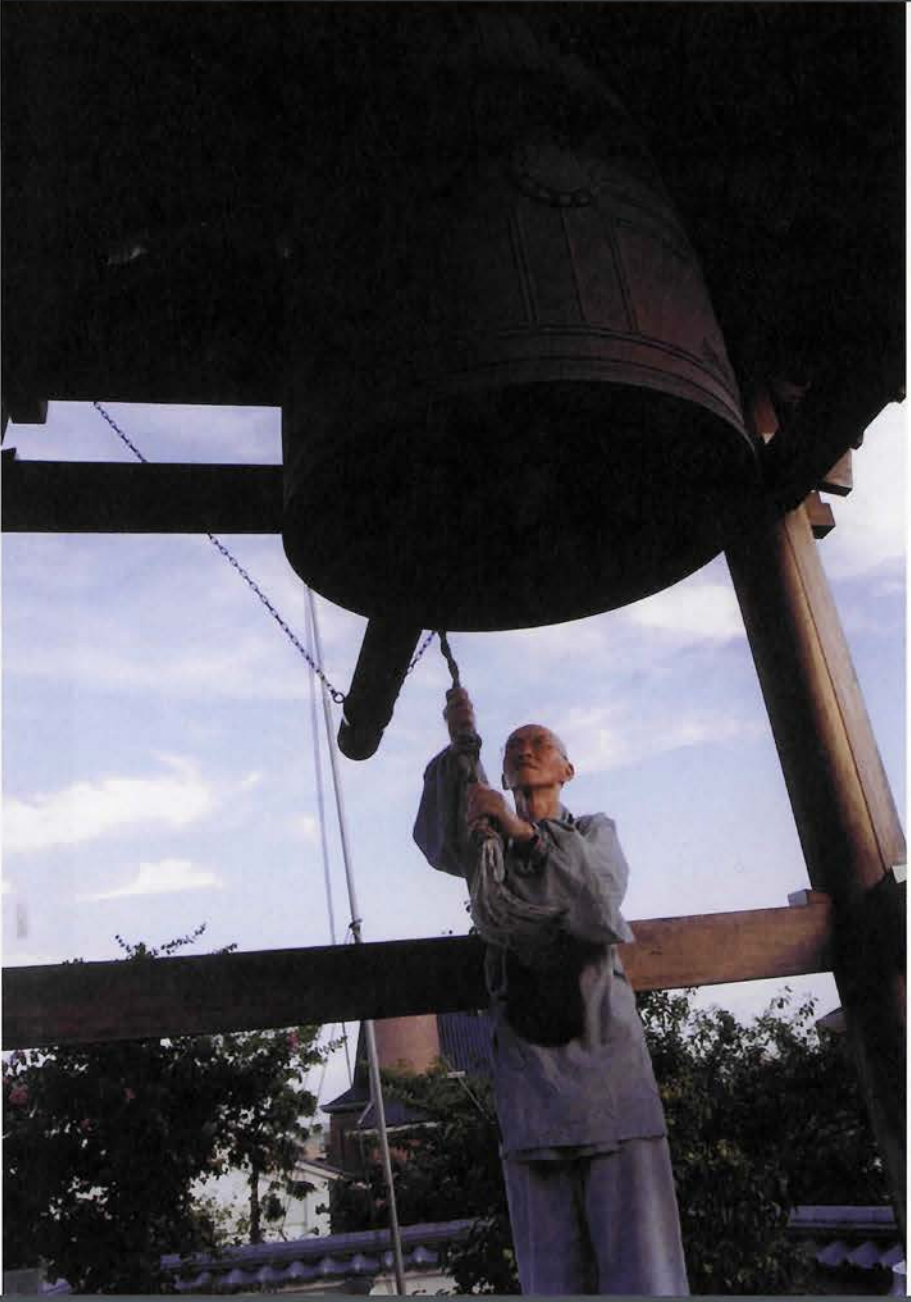
兵庫県知事

井戸敏三



波響く磯 The Waves Beating on the Beach 1983年

# ANGLE KOBE





**5:46 am**

**Jyotokuji Temple**

**Higashiyuenchi Park**

Photo Mann Kikuchi





震災で亡くなられた  
津高 和一作  
足音(イマB) 1958  
油彩・カンヴァス  
97.0×130.5

## 鎮 魂

1995年1月17日5時46分、阪神・淡路大震災により  
6533人の方々がお亡くなりになりました。

震災から10年を経て、その御霊を慰め、心よりご冥  
福をお祈りいたします。合掌

スマトラ沖地震・インド洋大津波で犠牲になられま  
した方々の御霊に追悼の意を表すと共に、一日も早い  
災害復興の道を歩まれますことをお祈りいたします。

月刊神戸っ子震災10年記念号を発行する会

# SECOND COVER

# 神戸は愛

神戸市長 矢田五郎



2003

5.10 ~ 5.12

NHK  
壁画



全壊し再建するNHK神戸放送局新会館の壁画  
中西 勝画伯と神戸二紀会制作



世界にたった一つの神戸

風塵抄  
EP

なにか、励ませ、という。そんな電話が、「神戸っ子」の大谷さんからかかってきたとき、その声に、雄々しい思いがした。灰塵のなかで、物を——未刊の号を——生みあげようという。それも、隣人にことばをかけよ、という。

当方は大阪にいて、連日、神戸の惨禍の報道に漬かっていて、自分が被災者でないことが申しわけないという気持ちでいたときに、そんな電話がかかってきた。

たまたま、毎月一回連載している「風塵抄」の原稿を書いていたときだった。十年ほど前、「神戸っ子」の小泉美喜子さんと、生田神社だったかのまわりの小路をぬけて通りにでようとしているとき、彼女が、

「神戸が大好きです」

といった。つづいて、あまり神戸がいたために、よそにお嫁に行っても帰ってくる人が多いんです、と彼女がいったので、私はユーモアだと思い、笑った。

ところが、小泉さんは、真顔だった。

「ほんとです」

彼女は、いった。

そんなことを思いだしつつ、「風塵抄」を書きはじめ、あの惨禍のなかで、神戸の人達が示した尊厳ある存在感



に打たれた、という旨のことを書いた。

家族をなくしたり、家をうしなったり、途方に暮れる状態でありながら、ひとびとは平常の表情をうしなわず、たがいにたすけあい、わずかな救援に、救援者が恥じ入るほどに感謝をする人も多かった。

神戸に、自立した市民を感じた。世界の他の都市なら、パニックにおちいっても当然なのに、神戸の市民はそうではなかった。

無用に行政を罵る人も、まれだった。行政という、“他者”の立場が、市民にはよくわかっていて、むりもないと考える容量が、焼けあとのなかのひとびとにあるという証拠だった。

扇動をする人も、登場しなかった。たとえそんな人がいても成熟した市民を感じさせるこの人達は、乗らなかつたろう。

えらいものだった。

この精神は、市民個々が自分のぐらしを回復してゆくことにも、きつと役立つにちがいない。

神戸。

あの美しくて、歩いているだけで気分の方がよくなった神戸が、こんどはいっそう美しく回復する上で、この精神は基本財産として役立つに相違ない。

神戸。

と、私はつぶやきつづけている。

やさしい心根の上に立った美しい神戸が、世界にただ一つの神戸が、きつとこの灰塵の中からうまれてくる。

(一九九五・一・二五)

■ポエム・ド・コウベ

## 神戸これからも

詩 安水 稔和

画 小磯 良平

あのととき亡くなった人がいて  
涙と声と苦痛。

あのあといなくなった人がいて  
悲しみと願いと歌。

それでも生きのびて  
それだから生きてきて。

すべてが変わったようで  
すこしずつ遠ざかるようで。

それでも変わらない  
いのちの喜び。

忘れず思い出し  
忘れてもくりかえし思い出し。





小磯良平「斉唱」

あれから十年。  
これから  
生きていく。  
これからも  
わたしたち生きていく。

KOBECCO 2005

ナビル・シェハタ 〈コントラバス奏者〉

林典子 〈ピアノ奏者〉

## 一息の合った コントラバスとピアノ伴奏

今シーズンよりベルリンフィルハーモニー管弦楽団のコントラバス首席奏者として活躍中のナビル・シェハタは25歳。

三宮のクラシックライブハウス「ピアノ・ジュリアン」で昨年の11月11日開かれたナビル・シェハタのスペシャルナイトライブは、プロの演奏者たちも酔わせるテクニクと深みのある情感を弦に響かせた。ピアノ伴奏の林典子は神戸っ子。ナビル・シェハタとのコンビはすばらしく、ぴったり合った演奏は感動的だった。

ナビル・シェハタは1980年クウェート生まれ。1999年からドイツ・ヴェルツブルグ音大で文屋充徳教授に師事、後にベルリン・ハンスアイスラニ音大でエスコ・

ライネに師事。ドイツ国立奨学金を授与、バルドー室内オーケストラのソリストとして客演。2003年9月からベルリン国立歌劇場の首席奏者。数々の国際コンクールで優勝し、ベルリンフィルの首席奏者に。

林典子は、神戸女学院大学音楽部のピアノ科卒業、同専攻科修了。ドイツ・ビュルツブルグ音楽大学大学院コンサートディプロムを取得終了、同大の伴奏要員となつてヨーロッパ各地で演奏、特に伴奏者としてコントラバス国際コンクールに出場して一位となる実力派。ナビル・シェハタとの出会いは、さらに彼女の伴奏に彩りを深め、これからの共演が楽しみだ。



# 14回

# ロドニー賞授賞式



## KOBECCO 2005

### 松本 巧

〈NPO国際チェロアンサンブル協会理事長・樹串乃家代表取締役社長〉

## —1000人のチェロ・コンサート ディレクター—

2005年5月22日、神戸ワールド記念ホールにて第3回「1000人のチェロ・コンサート」が、M・ロストロポヴィチの指揮により開催される。今年には阪神・淡路大震災10周年にあたり、高円宮妃久子様を名誉総裁にお迎えしてのチェロ国際フェスティバルだ。

チェロ弾きのゴシユならぬ、チェロ弾き・松本巧さんは、1950年愛媛県生まれ。同年神戸に移り、関西学院大学文学部（音楽美学専攻）を卒業後、串かつ店「串乃家」の社長に。震災のまち神戸に、何とか人を呼び戻したいと、500人のチェロコンサートを企画。高円宮様にチェロを弾いていただき、さらに名誉総裁にようお願いしたところ、高円宮様は全国に呼びかけて

1000人のチェロコンサートに、と提言された。1998年、松本さんをオーガナイターディレクターに、第1回のコンサートが開催された。

1000人のチェロ演奏は夢の実現。人の心を癒す音と、涙を流しながら弾く人々の響きは感動を与えた。

「3、4年に1度は開催しましょう」とおっしゃっていた高円宮様のご遺志を継いで、第3回の今年は、久子妃殿下をお迎えしてのコンサートにむけて、準備に忙殺されている。現在はNPO国際チェロアンサンブル協会理事長。日本チェロ協会評議員。神戸風月堂が主宰する「ロドニー賞」を、本年受賞した。





**天皇、皇后両陛下が追悼**  
 1月17日、兵庫県公館で開催された震災の犠牲者追悼式典に出席するため、天皇、皇后両陛下が神戸を訪れた。震災で肉親を亡くした遺族にいたわりと励ましの言葉をかけられた。神戸新聞社提供



## 祈りを込めて「阪神・淡路大震災10周年追悼」

長田区の御蔵北公園では、ベトナムにろうそくの灯りをともして「1.17みすが」の文字を。合同慰霊法要に対し遺族会から「かんしゃ」の文字も。終日多くの人が集った



震災10年垂水区より発信。震災のあった5時46分に震源のひょう野島町を目前に「安全で安心なまち垂水」を祈願。また犠牲者を偸ぶため鎮魂祭、パネル展示を開催した



神戸市立神陵台小学校祈念集会。全校児童・職員とPTA、地域の代表がろうそくの灯りを前に、体験談を語り合った



### 天地への祈り

兵庫県神道青年会が、5時46分に弓弦羽神社を出発し、東遊園地の震災慰霊碑など被災地に忌み火をさげた。淡路島・伊弉諾神宮では自然と人との共生を祈る「天地への祈り」をとり行った





## 地球規模で防災を考える

国連防災世界会議のプレシンポジウムが、神戸ポートピアホールで開催。バングラデシュ防災担当大臣より、スマトラ沖地震の被害についての報告が行われた

神戸市の追悼式典には約6000人が参列。矢田市長の式辞の後、1000人の児童たちが「幸せ運べるように」を合唱した



1月17日、午前5時46分三宮センター街に「プロジェクターX」が映像で完成。風さやかさんが「5時46分」を熱唱した

5時46分を、  
三宮センター街で歌う風さやか



NHK神戸放送局  
新会館がオープン  
1月16日、全壊したNHK神戸放送局の新しい会館がトアロードに生まれ、17日から発信

## ひょうごゆかりの洋画家100人展

1月18日から31日まで、被災者の心を癒し励ました絵画展が。震災の犠牲となった津田和一、大島幸子、上田清一の作品が目玉

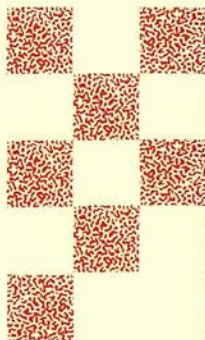




**AWAJIYA**  
SINCE 1903

季節のおいしさたっぷり充実のお弁当ラインアップ。

和風、洋風、中華風とバラエティゆたか。  
四季折々とりどりの味をたっぷりご満喫いただけます。  
いつでも、どこへでもあなたのお供に……。



明治三十六年、  
ひとつの駅弁屋が  
生まれました。

味づくりに一世紀。鉄板屋は、いつの時代にも、お客様に最高の味をお届けしつづけています。心をこめて、味づくりに取り組んでいます。

数前に駅弁用のごはんを炊いていた現存するレンガのかまど。



お弁当の  
株式会社 **淡路屋**

〒658-0025 神戸市東灘区魚崎南町3丁目6番18号 FAX (078) 431-1681

<http://www.awajiya.co.jp>

電話でご注文を承ります。

**☎ (078) 431-1682**

(イロハニ)

ご指定の時刻に  
ご指定の場所にお届けいたします。



表紙／石坂春生  
セカンドカバー／  
書・矢田一郎  
絵・中西勝と神戸二紀会



目次／井藤雅博「ブルージュの橋」

## 震災10年記念号目次◆2005

- 5 月刊神戸っ子震災10年記念号表紙／書・井戸敏三 絵・東山魁夷
- 6 ANGLE KOBE／菊池満
- 10 世界にただ一つの神戸／司馬遼太郎 写真・米田英男
- 14 KOBECCO 2005／ナビル・シェハタ、林典子／松本巧
- 16 神戸スナップ
- 20 神戸文学散歩／「少年H」同窓生と神戸を歩く 妹尾河童 撮・菊池満
- 24 特集／震災10年特集

Welcome Kobe ①加藤隆久 ②かどもとみのる  
どないすんねん神戸 ①田中まこ ②村上美穂

- 30 月刊神戸っ子震災10年記念特集／震災10年100字メッセージ1
- 36 2005 神戸南京町春節祭
- 38 祈り・神戸栄光教会献堂式／安田丑作
- 40 「Jr.バタフライ」を語る／三枝成彰さん、佐藤しのぶさん
- 42 ひょうごゆかりの100人絵画展
- 44 小さな旅／福山・しまなみ海道
- 46 和のインタビュー／華道の伝統と今を語る／肥原碩甫
- 50 美と健康シリーズ／フットテクノ・ヒサコネイル
- 52 KOBE観光マンガT&B／藤原健二
- 55 私の意見／永吉一郎
- 56 月刊神戸っ子震災10年記念特集／震災10年100字メッセージ2

- 66 震災エッセイ／大谷成章
- 68 震災復興音楽対談／レオン・シュビーラーvs矢野正浩
- 74 有馬歳時記
- 76 でん太の教えてドクター／足立 優
- 78 プロフェッサーPの研究室／岡田 淳
- 80 イベントスケジュール
- 82 海・船・港／上川庄二郎
- 86 コーヒーカップの耳／文 出石アカル・え 菅原洸人・題字 六車明峰
- 88 月刊神戸っ子震災10年記念特集／震災10年100字メッセージ3
- 98 月刊神戸っ子震災10年記念号を発行するの会員名簿
- 100 ごあいさつ／石坂春生・小泉美喜子
- 102 表紙のことば
- 104 神戸っ子倶楽部法人会員ニュース
- 108 北野マップ
- 110 神戸うまいもん&ドリンキングNEWS
- 111 神戸百店会だより

写真／フォトスタジオ PROX

# 『少年H』の同級三人が神戸を歩く

妹尾 河童（舞台美術家・エッセイスト）  
せのお かっぱ



1.17 大震災を伝え続ける人と未来の防災センターで

林五和夫君から「『神戸っ子』の文学散歩というページに登場してくれないか？『少年H』に出てくる所を歩いてもらうという企画なんや」と電話がかかってきた。まるで編集部員のような口調だったのが可笑しかった。

林五和夫といえは『少年H』を読まれた方には「横綱」というニッケネームで登場していた少年だとお判りだろうが、彼とは六十八年来の友人である。長楽小学校から、神戸二中（現在は兵庫高校の卒業まで、十一年も一緒だったから、もう半世紀をとくに越えた付き合いになる。『少年H』を執筆する際も、何かと協力してもらった。だから彼から「頼む」と言われると断れなくて困ることが多い。

今回もそうだった。「震災十年を迎えて防災を語る」という講演会で神戸へ来るやろう。その前日に来てくれへんか？そしたら小倉君も一緒に歩いてくれることになつとるんやけど……と断れない感じで迫った。

小倉宗夫君も同行すると聞いては、なお断れない。小倉君も『少



年日」に頻繁に登場している友人だ。彼にもずいぶん世話になっている。中学時代の僕は、問題児だったから先生によく殴られていた。彼は、それを庇ってくれただけでなく、僕が家出をして廃屋化した教室に隠れ住んでいたときも、食料を運んでくれた心優しい男である。「お前があんなことを書くもんじゃない」「昔は優しかったんですね。今の小倉さんとは大違いや」とからかわれて困つとるよ」とこぼしているが。

新神戸駅から「千代」に直行して二人に会い、まず昼食を食べる。



震災前に建て替った母校、兵庫高校を訪ねて／小倉・木村・妹尾・林（左より）

『千代』はトアロードの川北病院の向かい側を入った所にある小さな店だ。「お好み焼」の提灯を掲げながら、実は美味しい広東料理を食べさせてくれる店なのである。僕は帰神すると必ず「ただいま」と訪ねていたが、あの震災でこの店も壊滅してしまった。でも今は、被害の少なかった自宅を改築して、再び元気に営業を続けているので、安心だし嬉しい。

この店には、『少年H』に登場する恩師の英語の松本先生、人文地理の内藤先生もお招きして食べていたから、懐かしくもご縁のあ



校内美術館で小磯良平の「踊り子」、壁面の校章（林君のデザイン）をバックに

る場所でもある。我々七十四歳の三人も、少年時代に戻って賑やかに食べた。

まず訪ね歩くスタート地点は、中央区脇浜海岸通りに出来た『震災記念・人と未来・防災センター』に決めた。ここはかねがね訪ねたいと思っていた所だ。

館内では、激震で街がどんなふうに崩壊したかを、臨場感ある映像と音でリアルに再現していた。さらに、被災した人々から集められた物や資料と共に、あの震災を体験した人が『語り部』として、来館者に当時の様子や防災の知識を伝えてたりしていた。

僕は「神戸に来る人には、必ずこの『防災センター』に連れて来てほしいなあ。ここを訪ねるところから案内をはじめると、今の神戸の街を歩くだけでは判らないものが見えてくるから」と、力説した。それは、空襲で炎上する街の中を逃げまどった『H』の体験と震災が重なったからだろう。今の日本の各地で地震が起こり、被害が出ている現状を考えても、『阪神・淡路大震災』の教訓を伝える事は、戦争の愚を繰り返さないことを伝える



ことと同じように、重要な課題だ  
と思った。

次ぎの場所に移動するとき、妙  
齢の女性が車で現れた。華道家の  
木村禮子さんと、兵庫高校の後輩  
にあたる人だった。彼女は僕たち  
の移動に「車を運転しましょう」と  
ボランティアで参加してくれる  
ことになった。

次ぎの目的地の兵庫高校を目指



3少年は老いたが須磨の海と空は当時も今も変わらない

し、車は西に向った。今の校舎は  
僕が学んだ当時の姿ではなく、建  
て替えられたものだが、古い校舎  
が戦災を免れたお蔭で、昔の職員  
会議録や教務日誌が残っていた。  
その中に悪ガキだった僕の名前が  
数多く記載されていたので、閲覧  
させてもらうために三回も訪ねて  
いる。それが『少年日』を書く上  
で大いに役立ったので、ありがた

かった。

学校に着くと阪本校長が待って  
いてくれた。早速『美術館』のド  
アを開けてもらう。ここには二中  
を卒業した先輩画家の絵がズラッ  
と並んでいる。小磯良平、東山魁  
夷、古家新、田中忠雄といった画  
家たちの作品群だ。高校に美術館  
があるのは、全国でも珍しいだろ  
う。僕が二中に入学した頃は、校  
長室の壁に小磯良平画伯の『踊り  
子』の絵がかかっていた。部屋を  
訪ねて見せてもらった時、校長先  
生に「君も母校に絵を寄贈でき  
るぐらいの画家にならなさい」と言  
われた。僕は画家にはならず舞台  
美術家になったが、校長先生との  
約束を守って舞台模型を贈らせて  
もらった。

「次ぎは須磨の海かな。よく遊ん  
だなあ」と林君が言ったので、須  
磨に向かう。この浜辺は少年時代  
の僕にとって大事な場所だった。

空襲で街が焼け野原に変わり果て、  
人の心も変わったが、須磨の海と  
空だけは戦争中も戦後も変わらず、  
僕を慰め励ましてくれた。今は堤  
防ができて、当時の風景と様変わ  
りをしたものの、やはり故郷の海  
辺は優しかった。

空模様が少し怪しくなったので、  
長楽小学校へ急いで向かう。僕と  
林君が六年間学び遊んだ校舎は当  
時のままの姿で迎えてくれた。こ



(写真左) 2人が入学した68年前と変わらない長楽小学校校門前

(写真下) 西新開地大正筋も見事に復興、ちょっと一服



の校舎はあの空襲にも震災にもビクともしなかったのだ。しかし再来年には壊され、新校舎が建つらしい。「惜しいけど、しゃーないな。今まで元気なように頑張ってたよ」と、呟いていると、林君が「大正筋へ行ってみんか?」「H」が好きやった街やろ」と背中を押すように言った。車は激しく降り出した雨の中を大正筋へ向かう。

訪ね、酷かった被害状況をつぶさに見ていたが、再建された町並みは、僕の記憶にある風景とは全く違っていた。喉が渴いたので大正筋の吉田商店で果物のジュースを飲む。店の一家は「家族で『少年H』を読んだから、著者に会えて嬉しい」と喜んでくれた。中学生の息子さんが「中学二年の国語の教科書に『少年H』が載っているから皆んな読んで」と言った。戦争のことも、震災のことも、風化させてしまわないように、次ぎの世代に伝える努力を怠ってはならないな、と改めて思った。

撮影／菊池 満(写真家)